



<http://www.palcoop.or.jp>

組合員さんも生産者も 安心できる商品のために ～放射能検査を6月からスタートしています～

東日本大震災は、福島原発事故による放射能流出も引き起こし、消費者・生産者の食品への不安を増やしています。「ばるタイム43号」でもお知らせしたように、パルコップでは商品検査室において『放射能検査機器(ゲルマニウム半導体検出器)』による、残留放射能検査を始めました。風評被害に同調せず、産地生産者が安心して供給し、組合員さんが安心して消費できるために、できることとして事前検査を積み重ねていきます。

この間、商品検査室で検査を実施した例

測定日	産地・商品名	測定日	産地・商品名
6/17	(福島県)プロッコリーなど	7/26	(岡山県)生協牛乳など
6/20	(静岡県)COOP深むし茶など	7/29	(栃木県)国産牛ロースステーキなど
6/21	(静岡県)山中茶など	8/1	(山形県)尾花沢すいかなど
6/22	(茨城県)有機きゅうりなど	8/2	(茨城県)なすびなど
6/23	(千葉県)有機おかひじきなど	8/4	(福島県)JA新福島・桃など
6/30	(千葉県)小田さんのチンゲン菜など	8/5	(長野県)高原野菜ボックス・かぼちゃなど
7/15	(福島県)国産牛肉すき焼肩ロースなど	8/8	(群馬県)カジカくらぶ・キャベツなど
7/22	(兵庫県)コープ牛乳など	8/9	(静岡県)静岡茶など
7/25	(福島県)JA伊達みらい桃など	8/10	(福島県)手よりきゅうりなど



枚方市にある商品検査室での検査の様子



8月10日現在で野菜38品、果物7品、魚1品、牛肉2品、牛乳13品、茶8品、合計69品を検査、いずれも規制値内*でした

*規制値：国が定めた暫定規制値です。パルコップでは政府の定める暫定基準値に沿った内容で対応を行っています。(例えば、野菜・肉類などは500ベクレル(Bq/kg))

<今後の検査の考え方>

優先順位を

- ①今まで通り、福島原発周辺の東北地方の品目
- ②米・牛乳など日常的に摂取頻度や量が多い食品 として、検査数を増やしていきます

<よくあるご質問> — 最近のお問い合わせの中で、よくあるご質問にお答えします —

Q：豚や鶏には、飼料は稲わらを使っていますか？

A：とうもろこし等の穀物主体の配合飼料を与えています（鶏は大豆かす、米、魚粉なども）。牧草、稲わらなどは与えません。

Q：牛乳の牛は大丈夫ですか？

A：パルコップで取り扱っている牛乳は、もともと距離の関係もあり関東・東北の原乳は使用していません。「パルコップ生協牛乳」(おかやま酪農協)の乳牛は岡山と北海道生まれ。「パルコップ阿蘇やまなみ牛乳」(熊本県酪農)の乳牛は熊本生まれです。いずれも飼料(牧草)は県内と輸入品(アメリカ・オーストラリア・カナダ・中国)を与えています。他の牛乳についても淡路島や高知県、蒜山(岡山)の原乳を使っており、「コープ牛乳」は主に兵庫県・徳島・九州です。

Q：牛乳の放射能測定はどうしていますか？

A：上記のような原乳を使用していますが、念のため、7月22日より牛乳についても検査を始めました。

Q：商品案内に、産地を1県(農産・畜産)だけで表記したり、検査結果を載せられないの？

A：商品案内は6週以上前に作成していますが、企画を決める時点で行政の判断に基づいた商品選定をしています。産直及び指定産地以外は、作柄が未定などの理由で複数産地の表示をしていま

す。お届け前に、検査の考え方に沿って可能な限り、モニタリング検査をしています。

Q：放射性物質の暫定規制値を超えた食品を食べた場合、健康に影響はありませんか？

A：政府や行政のコメントのように、暫定規制値は1年間食べ続けた場合を考慮した数値です。また、天然の放射性物質・カリウム40は、毎日の食事にも含まれていて人は年間で0.2ミリシーベルト被ばくしていることから考えて、何回か食べても、放射線が目に見えて健康に影響するレベルではないと言われています。

Q：今後、検査品目は増えますか？ 魚や米なども心配です。

A：現在使用している検査機器に加え、簡易検査機(スペクトルサーベイメータ)を新たに購入し、予備検査を行い、検査品目を増やしていきます。現在企画している魚は、震災前に漁獲して冷凍保存しているものです。米は昨年産のものです。尚、9月4日から生サンマが新物企画されます。また、東北・関東からの新米も9月以降企画されます。順次、優先順位に沿って検査を行なっていきます。

今後も、風評被害に同調せず、組合員さん・生産者ともに安心できるように、できることを行なっていきます。今後の情報についても、随時「ばるタイム臨時号」などでお知らせします。